

ササ竹で戸をたたき元気に「起きよー」と呼び掛ける児童



神武天皇に献上したとされるお舟出だんごをつく児童

起きよー、起きよー

美々津町
立縫地区

美々津町
立縫地区

伝統の「おきよ祭り」

神武天皇のお舟出だ

日向

日向市美々津町の立縫地区で、神武天皇の東遷伝説にちなみ旧暦八朔（はつき）に行われる伝統行事「おきよ祭り」があった。美々津小の児童らが短冊飾りの付いたササ竹を振りながら「起きよー起きよー」と家々を周った。主催は

美々津の歴史的町並みを
守る会（米澤敏明会長）。

祭りは、神武天皇が東征のために美々津から船出しようとした際、未明に風向きが急に良くなることから出発を早めたため、見送りを予定していた人々などが隣近所へ声を掛け合って起こしたことが由来とされる。

今年も美々津小の1、2、3年生の児童32人が参加した。午前4時ごろ、神武天皇が座ったと伝えられる腰掛け岩がある立縫神社に集合。神事後、暗く静かなまちへ繰り出した。児童は家の玄関前に来ると、ササ竹で戸をたたき元気に「起きよー」の声を家人が起きたという印に、門灯がともったことを確認し足早に次の家へと急いだ。

祭りに関係者や地域学校関係者など計約120人が参加。最後は神武天皇に献上したとされる、米粉と小豆を混ぜて蒸した「お舟出だんご」を児童が交代でつき、参加した人たちが味わった。立縫地区から参加した原田将希さん（6年）は「最後の祭りだったけど、下級生たちもいい姿を見せられたと思う。来年は4、5年生がしっかり手本を見せてほしい」と感想。

米澤会長は「今後も美々津の町並みと共に、新しい世代にこの伝統をつなぎ守っていききたい」と話した。

イセエビの季節到来

延岡7、佐伯21店舗参加

東九州伊勢えび祭りスタート

日豊海岸の海の幸コース料理で堪能

「東九州伊勢えび海道・伊勢えび祭り」の開幕を祝う食事が7日、延岡市須美江町の民宿紺碧（甲斐宏明店主）であった。延岡市から読谷山洋司市長、谷平興二延岡観光協会会長、高平健世実行委員、大分県佐伯市から田中利明市長、橋本正恵佐伯市観光協会会長、富澤恭一郎実行委員長の計6人が会食し、今年最初の伊勢えび料理を堪能した。

祭りは2日から始まり、延岡7、佐伯21の計28店舗が参加。同海道憲章ののち、目の前日豊海岸で取れたイセエビの刺し身やみそ汁を含むコース料理を提供

し、食べた人にはさまざまな特典が受けられる「海道札」を進呈している。同札のアンケートに答えて応募すると、さらにイセエビエビが当たるチャンスがある。

食事会にはイセエビはもちろん、同店所有の船で取ったタコの刺し身、甲斐店主が自ら潜って取った貝の焼きものなど、地もの尽くしの料理が並んだ。谷平会長が乾杯の音頭を取った。

同食事会初参加の読谷山市長は「アブリ」としてイセエビで、見ただけで新鮮さが分かる。きつと県外の方にも喜んでいただける味だと思つ。市民も食べておいしさを実感し、大いに外にアブリしてほしいと話した。

甲斐店主によると、関西や北海道に大きな被害を与えた台風21号が過ぎた後も日豊海岸はしげが続けているため、イセエビは水揚げが少なく、浜

値はやや高値という。だのものが揚がっていると、須美江では、大ぶり一聞いている。天候が安定



当選者のはがきを披露する関係者。左から延岡市の高平さん、谷平会長、読谷山市長、佐伯市の田中市長、橋本会長、富澤さん

なれば水揚げ量も増えてくるのでは」と話していた。

同祭りは、両市の観光協会が県境を越え連携して取り組んでおり15年目。地形が複雑なリアス式の日豊海岸で取れたイセエビは、味が濃くておいしいと定評がある。今年には11月30日までの期間中、計1万2千食の提供を目指している。参加店は次の通り。

- 【延岡市】北浦町料理処丸金、民宿臨港、海鮮の宿さざれ石高島、潮香ノ宿高平屋、道の駅北浦レストラン海鮮館、須美江町・民宿紺碧、海の家黒潮
- 【佐伯市】上浦・塩湯・葛港・海・鶴見・伊勢家、鶴見海望パーク・米

「東九州伊勢えび海道」の公開抽選会が、伊勢えびまつり開幕記念の食事に先立って行われた。延岡市、大分県出町、福岡県、東京都からそれぞれ応募した6歳から67歳までの4人が当選した。

子や孫から70歳以上の家族にペア食事券を贈ってもらおうという企画で、毎年行っている。例年並みの1177通の応募があった。抽選箱の中から、主催者の両観光協会長と両市の市長が1枚ずつ引いた。当選者には主催者から、敬老の日（17日）に間に合うように食事券が郵送される。